

Press-release/E-flashから

『ITUジャーナル』編集部

E-flash

① ITU-T e-FLASH No.14 (3月22日)

(出典: www.itu.int/ITU-T/e-flash/014-mar05.html)

・ ITUはIETFとNGNワークショップを共催

ITU to hold NGN Workshop with IETF

ITU-Tは、2005年5月1～2日に、ジュネーブにおいてNGNに関するワークショップをIETF (Internet Engineering Task Force) と共催する。このワークショップの最大の目的は、ITU-T及びIETFの双方が進めているNGNの課題を明らかにし、重複を避ける一方、双方が協力し合える分野を明らかにすることにある。

・ 宅内電話線ネットワークの標準化

Home Phone Networking Standards Progress

ITU-Tの新たな国際標準が、宅内電話線ネットワーク技術の進展を助けている。宅内電話線ネットワークは、家庭内のコンピュータ、プリンタ、ゲーム機などのデバイスをネットワーク化する簡易な手段であり、ITU-Tの標準に基づいたHome Phoneline Networking Alliance (HomePNA) の技術を用いれば、128Mbps (オプションで240Mbps) のデータ伝送が可能である。ITU-T勧告G.9954は、G.989.1、G.989.2とG.989.3を含む一連のITU-T勧告の最新のものであり、電話線を用いたネットワークにおけるインターオペラビリティと互換性の課題、特に装置に対する物理層、メディアアクセス、リンクレイヤに対する規格である。数多くの製造業者が既に、ITU-Tの仕様を製品に組み込んでいる。

・ イエローブックが入手可能に

Yellow Books Available

ITU-Tの今後4年間の作業に対するガイドラインを詳述したイエローブック1と2が発行された。イエローブック1は、2004年10月5～14日、ブラジルのフロリアノポリスで開催された電気通信標準化総会 (WTSA) でのすべての決議を含む。決議は、スタディグループ活動の基本的なガイドラインとなるものであり、2005年から2008年間の間

に各スタディグループが担当するトピックスや課題が明らかにされている。また、ブック1には、ITU-Tの組織運営を詳細に規定しているITU-T Aシリーズの勧告も含まれている。ブック2では、WTSAでの討議記録と、決議が記載されている各種報告文書、並びに統計資料等を含む前会期の活動報告が記載されている。

・ 標準化の重要性

The Importance of Standards

情報技術の普及は標準化なしで可能であろうか。これは、ITU-Tをはじめとする標準化関連機関が9月21～23日にジュネーブで開くSIIT (Standardization and Innovation in Information Technology) の第4回会合の組織委員会による問い掛けであり、このイベントの主要議題である。SIITは、2年ごとに開かれる会議であり、IT企業家、政策担当者 (WTOを含む)、標準化作成機関 (ITU-TやISO)、ユーザー (行政機関や会社) などの標準化担当者や標準化に興味を持っている研究者等を一堂に集め、経験や意見を交換し合うことを目的としている。SIIT2005の技術スポンサーには、ITU、AT&T、IEEE、ICSR (International Center for Standards Research) と2大学、企業スポンサーにはSunとBTがなっている。また、SIIT2005では、標準化の重要性をもっと理解するのに役立つ論文を募集している。標準あるいは標準化の動向、問題点、ダイナミクスなどに関する未発表のもので、6,000語以内、応募締切は4月15日である。詳細は、www.siiit2005.orgまで。

・ ITU-TはSPIEのイベントを援助

ITU-T Gives SPIE Event Support

SPIE (国際光学技術学会) の50回記念年次大会で、ITU-TはH.264/AVC Video Codingの進歩とアプリケーションに関するセッションをサポートする。H.264/AVCは、ITU-T Q.6/SG16 VCEGとISO/IEC MPEGによって共同開発されたビデオコーデックで、ビデオ会議、インターネット上でのストリーミングビデオ、衛星やケーブルで高品質のデジタルテレビ画像を廉価に提供することを可

能にする画像圧縮技術であり、ハイビジョンDVD、携帯電話でのビデオなどの新しいビデオアプリケーションにも使われる。

・カーワークショップをオンラインで

Car Workshop Online

ジュネーブ・モーター・ショーの期間中、3月2～4日に行われた、ITU-Tワークショップ“The Fully Networked Car - a Workshop on ICT in Motor Vehicles”を見逃した人のために、ITUはインターネット放送サービス(IFS)のイベント音声アーカイブで、ワークショップの全セッションの音声サービスを提供している。

・ネットワークマネジメントのためのセキュリティ規格決定

Security Standards for Network Management Defined

SG4では、2月15～23日に開いた会合で、管理プレーンにおけるセキュリティの要求条件、サービス、メカニズムを明確にする一連の勧告案をコンセントした。本勧告案(ITU-T勧告M.3016.xシリーズ)は、ネットワーク要素と管理システム間のインタフェース、及び管理システム間同士のインタフェースにおける管理情報の安全な通信を実現するものである。

・人と機械とのインタフェースに関する新標準

New Standards for Human Machine Interface

TMフォーラム(The Telemanagement Forum)とSG4のメンバーから成るヒューマンマシンインタフェース(HMI)研究をする共同フォーカスグループは、Z.371とZ.372の勧告案をSG4に入力し、その活動を終了した。勧告案Z.371は、グラフィカルユーザーインタフェースと、リンクやノードを表示するための情報規格を扱っており、勧告案Z.372は、対象物をブラウズするときに使用するHMIのテンプレートデザインを規定している。一方、Multi-Technology Network Managementを扱う新しいフォーカスグループがSG4の中につくられた。このグループは、将来の管理インタフェースの標準化を目指す予定で、今回はマシンマシン間のインタフェースを課題とする。特に、SONET/SDH、DWDM、ATM、Frame Relay、Ethernet、DSL等の技術に用いられるマネージングトランスポートネットワークのインタフェースと、その要素を検討する予定である。

②WSIS E-FLASH No.21 (3月22日)

(出典: www.itu.int/wsis/newsroom/eflash/2005/number21.html)

以下の5項目は、本誌4月号(Vol.35、No.4)9～10ページに同じ内容の記載があるので、御覧いただきたい。

- ・WSISチュニスフェーズの準備会合に多数参加
High interest in the preparatory process of the Tunis phase of WSIS
- ・デジタル・ディバイド解消に向けたファイナンシャルメカニズム
Financial mechanisms outlined to meet the challenges of the Digital Divide
- ・プレップコム2、デジタル連帯基金の設立を歓迎
PrepCom-2 welcomes the dreation of a voluntary Digital Solidarity Fund
- ・インターネットガバナンスワーキンググループ
Working Group on Internet Governance
- ・チュニスサミットのフォーマット
Format of the Tunis Summit

・チュニスサミットでのイベント：申込締切は2005年4月30日

Parallel events at the Tunis Summit: deadline for applications, 30 April 2005

チュニスサミットでは、核心となる政治プロセス活動に加え、サミットのテーマと関連するイベントも開催される。ジュネーブ会合と同様に、このイベントはサミットにおけるハイライトとなるものであり、サミットテーマに関する自由討議や成功事例を示す場となる。これらのイベントに関する報告はサミットのプレナリーでも取り上げられる。詳細情報と申込フォームは、www.smsitunis2005.tn/plateforme/docs/guidelines.docに掲載の“Guide line for Organizers of Parallel events during the second phase of WSIS”を御覧いただきたい。申込締切は2005年4月30日。

・プレップコム2以降プレップコム3までの予定

Intersessional period between PrepCom-2 and PrepCom-3

第2回準備委員会は最終のプレナリー会合で、プレップコム2で合意されたファイナンシャルメカニズムに関する章を直接プレップコム3に送り、プレップコム3で「」書きの未決部分の取扱いを決めることとした。チュニスドキュメントの政治的な部分は、プレップコム2開催中に提出された書面でのコメントや提案と共にプレップコム3へ送られる。WSISアクションプランの実施状況及びWSIS終了後のフォローアップメカニズムの章は、議長フ

レンズ会合において議論されることとなり、この項の修正版はプレップコム2でのコメント及び提案と共にプレップコム3へ入力される。インターネットガバナンスに対するワーキンググループの報告書については、8月中旬までに提出された提案やコメントと共にプレップコム3へ提出される。WSISチュニスフェーズの第3回準備会合、プレップコム3は2005年9月19～30日に開催される。プレップコム3の情報はWSISウェブサイト www.itu.int/wsis/preparatory2/pc3/ で入手可能である。

・ WSISへの新しい寄付金について

New contributions to the WSIS Fund

内海ITU事務総局長はプレップコム2で、チュニスフェーズの準備活動をサポートするために130万スイスフラン以上の寄付があったことを明らかにした。これらの新しい寄付と合わせ、これまでに寄せられた寄付は、目標の500万スイスフランの半分以上270万スイスフラン強に達した。チュニスフェーズの準備プロセスとサミットに要する費用の合計は、ホスト国の費用は含まないで、約1,500万スイスフランと見込まれる（内訳は現金500万スイスフラン、その他が1,000万スイスフラン）。

・ WSIS地域会合とサブ地域準備会合：

WSIS Regional and Sub-Regional Preparatory meetings:

2005年5月8～10日 エジプト カイロ

Pan Arab地域のアクションプランのupdateを行う“WSIS IIに向けて：アラブ地域対話”と銘打った準備会合が、エジプト政府のホスト、アラブ諸国の協賛、ITU、WSIS事務局の協力の下に行われる。

2005年6月8～10日 ブラジル、リオデジャネイロ

ブラジル政府は、ラテンアメリカ及びカリブ海諸国のWSIS地域準備会合として“チュニスへの道”と題した大臣級会合を開催する。併せて、市民社会による情報社会に向けた地域アクションプラン構築のためのセミナーも開催する。

・ WSISテーマ別会合：

WSIS Thematic meetings:

2005年3月14～18日 カナダ、オタワ

テーマ：“情報社会における原住民：アクションプランの実践”

2005年5月6～7日 マリ、バマコ

テーマ：“文化の多様性と多言語主義そしてサイバースペースへの全員の参加”

2005年5月11～13日 フランス、パリ

テーマ：“ICTによる能力開発：成功の決定要因”

2005年5月16～17日 日本、東京

日本政府は、ITU及び国連大学と共同で“東京ユビキタス会議”と銘打ったWSISテーマ別会合を開催する。本会合では、デジタル・ディバイドの解消、情報コミュニケーションインフラの開発、持続的かつ、いつでも利用可能なICTへのアクセス、情報・知識へのアクセスをどこからでも可能にするユビキタス・ネットワーク社会のコンセプトの明確化及び実現のための方策を討議し、WSISチュニスフェーズに提言するものである。

2005年6月28日～7月1日 スイス、ジュネーブ

ITUは2005年6月28日～7月1日までサイバーセキュリティに関するWSISテーマ別会合をジュネーブ本部で開催する。

・ WSIS地域テーマ会合：

WSIS Regional Thematic Meetings:

2005年5月9～11日 マレーシア、クアラルンプール

AIBD (The Asia Pacific Institute for Broadcasting Development)、ASBU (the Arab States Broadcasting Union) 及びSABA (the Southern African Broadcasting Association) は、第2回「アジアメディアサミット—AMS2005」を開催する。世界中の放送関係者が、寛容と協力について話し合い、AMS2005の成果をWSISチュニスフェーズに提言する。

③ ITU-D e-FLASH No.9 (4月1日)

(出典：<http://www.itu.int/ITU-D/e-flash/2005/apr.html>)

・ 欧州電気通信開発準備会議がルーマニアにて開催～WTDC-06に向けた最初の活動～

European Telecommunication Development Preparatory Meeting to be Held in Romania -First Stop to the World Telecommunication Development Conference (WTDC-06)

2005年4月18～20日、ルーマニアのブカレストで、世界電気通信開発会議に向けた欧州地域の準備会議が開催される。この会合は、ルーマニアの通信情報技術省により招請されるもので、キー・ステークホルダーによる地域の開発の必要性とその優先順位の検討、ICT開発促進のために推進すべき項目の明確化、デジタル・ディバイド解消のための取組やプロジェクトに対する評価等が行われることとなる。同会合の結果は、他の地域準備会合の結果と共に2005年12月に開催予定のTDAG会合を経て、2006年3月7～15日までカタールのドーハで開催されるWTDC-06に提案される。他地域の準備会合予定は、以下のとおり。

- 16-18 May : アラブ地域 (アルジェリア, Algiers)
- 08-10 June : アジア太平洋地域 (ベトナム, ハノイ)
- 05-07 July : アフリカ地域 (ナイジェリア, Abuja)
- 09-11 August : アメリカ地域 (バルー, リマ)
- 11-13 October : CIS地域 (ロシア連邦, モスクワ)

・ ITU-NEPADコア・パートナーズ会合で、アフリカのICT開発に関する報告書を採用

ITU-NEPAD Core Partners Meeting Adopts Report on ICT Development in Africa

ITUとアフリカ開発のための新パートナーシップ (NEPAD) は、2005年1月31日、ガーナのAccraにおいて、コア・パートナーズ会合を共催した。この会合は、WSISに向けた第2回アフリカ準備会合の会期中に開かれたもので、ICTを活用してアフリカ各国の開発を支援している機関やアフリカでICT基盤の整備を推進している機関間の協力の在り方に対するITUの構想が討議の中心議題となった。ITUの構想では、アフリカ大陸におけるICTプロジェクト間の調整やフォローアップを行う機関として機関間調整委員会 (Interagency Coordinating Committee : IACC) の設置を提唱している。アフリカ連合 (AU) やアフリカ経済委員会 (ECA)、アフリカ開発銀行 (AfDB) など、主にアフリカの電気通信開発関連機関からの参加があった。

・ 通信法規、政策、規則の施行に関するセミナー

Seminar on Enforcing Telecommunication Law, Policy and Regulation

2005年3月8日にスイスのジュネーブにおいて、通信法規、政策、規則の施行に関するセミナーが開催された。このセミナーは、規制改革ユニット (RRU) により開催されたもので、38か国の通信関連主管庁、規制機関、セクターメンバー及び地域機関等から、30名の女性を含む90名が参加し、通信法規、政策、規則の施行についての現在の活動状況に焦点が当てられた。

・ 周波数管理に関するG-Rexヴァーチャル会合を開催

G-Rex Virtual Conferences on Spectrum Management

規制改革ユニット (RRU) は、規制当局担当者及び政策担当者のための周波数管理政策に関するG-Rexヴァーチャル会合を2月28日及び3月17日に開催した。両会合ともコロラド大学の国際周波数管理の専門家であるデート・ハットフィールド教授の主導によって行われたもので、参加者は、アフリカ、南北アメリカ、アラブ諸国、アジア太平洋及び欧州など、世界中に及んだ。これらの

ヴァーチャル会合の様子は、<http://www.itu.int/ITU-D/treg/>からダウンロードできる。なお、このヴァーチャル会合は、電話会議システムと専用のウェブサイトを使って行われるもので、参加者は電話会議システムに接続し、専用ウェブサイトアクセスすることで、パワーポイントスライドやウェブ検索及び他のドキュメントをすべての参加者で共有することができるものである。本会合は、2004年の世界規制体シンポジウムで勧告された“周波数管理政策”、“スパムに対する国際協調”、“ブロードバンドやVoIPを推進するための規制体の役割”をテーマとした一連のヴァーチャル会合の最初のもので、今後の予定については、近々アナウンスされる予定である。

・ BDTのCOSITU訓練用資源、センター・オブ・エクセレンス (CoE) を通じて有効活用

Multiplying BDT's COSITU training resources through Centres of Excellence (CoE)

市場経済・財政ユニット (MEF) は、2005年3月14～16日、ジュネーブにおいて、COSITU担当者による対話集会を開催した。本会合は、世界各国から10名の参加者が集まり、ITUのコストモデルの利用に関して、その経験、知識の共有拡大を図った。また、本集会には、アフリカ、アラブ諸国及びアメリカのITUのセンター・オブ・エクセレンスのコーディネータも参加し、BDT資源を有効活用するという役割を再認識した。

・ 第3回アラブにおける通信及びIT規制当局ネットワーク会議

3rd Meeting of the Arab Telecom and IT Regulatory Authorities Network

2005年3月2～3日、エジプトのシャーム・エル・シェイクにおいて、第3回アラブにおける通信及びIT規制当局ネットワーク会議が開催された。この会合には、アラブ諸国の通信及びIT規制当局から11名の参加者がおり、通信規制当局の再編に関するガイドラインや人材開発と人材育成のプログラムの策定といったネットワークの戦略的計画に関するプロジェクト等に関して議論された。

・ 開発途上国のためのデジタル無線についての訓練活動
Training Activities on Digital Radio for Developing Countries

2005年2月7日～3月4日まで、イタリアのトリエステにおいて「開発途上国における研究と訓練のための無線を用いたコンピュータ・ネットワーク」に関する訓練コースが開催された。この訓練コースでは、ICTのための無線技術及びデジタル通信やコンピュータ・ネットワークのた

めの無線技術に焦点が当てられている。本訓練コースは、BDTとAbdus Salam International Centre for Theoretical Physics of Trieste (ICTP) との覚書の一環として行われたもので、途上国における通信、技術分野の人材開発、能力開発を目的としている。

④ITU-T e-FLASH No.15 (4月12日)

(出典: www.itu.int/ITU-T/e-flash/015-apr05.html)

・ITU-T標準に基づくFTTPのデモ

FTTP Demo to Showcase ITU-T Standards

6月6～9日にシカゴで開催されるSupercommで、米国はfibre to the premises (FTTP) 関連のITU-T標準G.984とG.983シリーズに準拠したパッシブ光ネットワーク(PON)装置並びにそれらの相互運用性を展示する。PON技術は、住宅やSME(中小企業)の建物に直接光ファイバーを分配するもので、電気信号に変換する必要が全くないので、経済的な光ネットワーク構築を可能とするものである。G.984シリーズは、最新技術ギガビットPONs(G-PON)の勧告であり、ビデオアプリケーション、高速インターネット・アクセス、マルチメディア、及び他の広帯域アプリケーションに使われる。また、このG-PONでは、G.983で定義されているブロードバンドPONs(B-PON)用の光分配ネットワーク、波長プラン、フルサービスネットワーク設計原則がそのまま適用可能である。17の業者が、G-PONの製品の相互運用性や性能試験装置などを展示する。

・ITU-T、災害救助に関する標準化への取組を強化

ITU-T Ramps-Up Disaster Relief Standards Effort

2005年2月28日にバンコクで開催された災害減少のためのアジア・太平洋電気通信共同体(APT)/ITUミーティングを受け、TSAGは、すべてのITU-T SGに、関連する標準化活動とハンドブックなどの作成を行うよう指示した。ITU-Tでは既に、災害状況下における緊急優先呼などの勧告を作成しており、また、ITU SGの代表、他の標準化推進組織(SDOs)、政府間機関、及び救援組織を含むPCP TDR (Partnership Coordination Panel on Telecommunications for Disaster Relief)も設立したりして、この分野における活動を進めている。

・新研究課題選定のための技術調査

Technology Watch to Monitor for New Work Areas

3月のTSAG会合では、ITU-Tの新研究課題を選定するために、学术界、産業界、研究機関、及び他のSDOsをモニターする新たなグループの所掌事項を合意した。技術調査は、主に電子的な活動方法を用いて行われ、第1

の候補は無線周波認識(RFID)のネットワーク面についてである。もう1つの候補は、グリッドコンピューティングで、通信ネットワークで結ばれている多数の未使用コンピュータのリソースを活用し、膨大な計算処理を行うものである。

・NGNワークショップにスポンサーが

NGN Workshop Attracts Sponsorship

世界的なネットワーク会社、シスコシステムズは、前掲ITU-T e-Flash No.14で報告した次世代ネットワーク(NGN)に関するITU-Tとインターネット・エンジニアリング・タスク・フォース(IETF)共催のワークショップ(2005年、5月1～2日ジュネーブで開催)のスポンサーとなる。シスコは、ITUの会費以外に基金を募集しているITUの自発的寄付メカニズムを用いて、今回を含むNGN活動全般を支援していくこととした。

・ワークショッププログラム監督グループ

Group to Oversee Workshop Programme

TSAGは、ITU-Tのワークショッププログラムの増加に対応して、電気通信標準化セミナー調整委員会(SCC)を確立した。SCCは、ITU-Tのセミナーやワークショップの年次プログラムやイベント開催のためのガイドラインを作成する。また、イベントの評価も行う。このほか、SCCは発展途上国からの要求を考慮し、かつ各イベントでの学習項目とフォローアップアクションを網羅した報告書を作成することとなった。

・ITU-T標準の相互運用性を示すグローバルキャリアのデモ

Global Carriers Demo ITU-T Standards Interoperability

Optical Internetworking Forum (OIF)は、6月に米国シカゴで開催されるスーパーコムで、相互運用性デモンストレーションをホストする。ITU-T標準が、イーサネットのようなデータストリームサービスを既存のSONET/SDHやASON上で、どれだけ効率的に伝送できるかを実演する。

・新任IETFチーフがITU-Tにあいさつ

Newly Elected IETF Chief Meets With ITU-T

Internet Engineering Task Force (IETF)の新しい議長ブライアン・カーペンター氏が、IETFを代表してTSAGの3月会合に参加し、ITU-TとIETFとの連携・協調課題について話をした。カーペンター氏は、重複は避けつつもITU-Tと実り多い協力関係を築いていきたいと抱

負を述べた。

・ IPR ニュース

IPR News

ITU-Tは、知的財産権 (IPR) アドホックグループ会合からの提言を受け、ITU-T勧告の中で商標、サービスマーク、及び認証マークの“マーク”をどのように使うべきかのガイドラインを明らかにした。ガイドラインは、www.itu.int/ITU-T/othergroups/ipr-adhoc/documents/Marks-Guidelines.docで入手可能。また、特許宣誓書も昨年7月に指摘された修正点を反映して更新された。

・ アジア・太平洋の関係強調。アラブ Standards Day Asia-Pacific Ties Underlined, Arab Standards Day Celebrated

3月29日～4月1日にバンコクで開催された第9回アジ

ア・太平洋電気通信標準化機関 (ASTAP-9) に、TSAG 議長のゲーリー・フィッシュマン氏並びにITU-Tの事務局のパオロ・ローザ氏がITU-T代表として出席し、2004年10月の世界電気通信標準化総会 (WTSA) と3月14～18日の電気通信標準化アドバイザリーグループ (TSAG) 会合の結果と最近の活動の概要を説明するとともに、WTSAに対するASTAPの貢献とITU-Tに対するAPTの協力について謝意を表した。また、The Arab and Industrial Development and Mining Organization (AIDMO) は3月25日に、アラブのStandards Dayを祝した。

・ ビギナー用ガイドⅡ

Guide for Beginners Ⅱ

新メンバーにITU-Tの実際と有用性を解説するビギナー用ガイドの第2版、ビギナー用ガイドⅡが完成した。電子版は、www.itu.int/itudoc/gs/promo/tsb/87029.htmlからダウンロードできる。